



公益財団法人
草津市コミュニティ事業団
ロクハ荘



人生ちよっと・いい話!

昭和十年九月生まれのIさん
●毎週2回決まった曜日に元気に
ロクハ荘をご利用頂いているIさん
は、ご自宅から徒歩でゆっくり
散歩気分に来館されます。そんな
Iさんに今回は無理を言って時間
を頂きインタビューをさせて頂き
ました。これまで挨拶程度だった
Iさんと対峙すると「私みたいな
馬鹿者の話していいんですか？」
と少しはにかみながらインタ
ビューにに応じて頂きました。
●質問を幾つか考えていたので
が、始まりは若かりし頃の武勇伝
からいきなり始まりました。今日
ではビックリするようないことが多
いので紙面では割愛させて頂きま
す(笑)
●大学を卒業され大阪のガラス会
社で社会人のスタートを切られた
Iさん、営業時代には、今や一流
企業のシオノギ製薬やサントリ
ーから医薬品のピンの契約に至っ
た経緯は、これまで培ったご自分
の一人な思いと努力が報われる瞬間
だったようです。●自分が目標と
するもの(なりたいもの等)に、
一途に向かい合う思いや努力は実
を結び、大恋愛の末に奥様と結婚に
至った経緯を話された顔は幸せそ
うでした。しかし、数年前にその
奥さまは他界されたそうです。●

●営業で培ったその精神と一途な
思いは、ご自身で会社を経営する
といった自慢のものになっていき
大口の仕事が舞い込む良い時代で
あり、三十五人の社員と共に一生
懸命働いた時であったようです。
●様々な人生、良い時もあり悪い
時もあるように、Iさんもすべて
が順調だったわけではありませ
折角順調だった会社も、ある裏切
りから手放すことになってしま
りました。そのような事はその後
かかわって来たご自身のお仕事
付き合ってもあったそうですが、
本来なら人間不信となりがちなこ
とも、当の本人は、「私が馬鹿
だったんです。」と、意外とサバ
サバした口調で語ってくれました。
●Iさんが小学校6年から始めた
空手、現在、ある大学の総師範の
立場でもあります。質問で「自慢
することはありますか？」と聞い
たところ、「空手の技」とおっ
しゃいました。Iさんの空手は沖
縄空手の流れをくむものとの事、
話をお聞きする中で、Iさんの心
の中での70年を超えて根付いて
いたのはこれではなかったのかと
思いました。●「泰然自若」何が
あっても動じず、落ち着きを持っ
て対処できる。この精神が楽し
かった時期・苦しかった時期、
様々な状況の中で決して揺るぐ事
の無いものにしていたのです。



●人生を振り返ると「あんな事も
あった、こんなこともあった」人
はそれを懐かしく思い出します。
しかし思い出す事の多くは意外と
苦しかったことが多いかもしれま
せん。●しかし、懐かしく思いだ
すと言うのは、それを取り越えて
きたゆえに思い出すのであって何
事にも対処できる力があつたから
筈です。人は年を重ねる毎に年輪
を刻みます。●その年輪が多くな
ればなるほど折れない太い幹が形
成されます。そこに根を大きく広
く張った樹は、どんな雨風にも決
して倒れないものになります。I
さんは、それを「空手」を通して
学び、培ったのではないかと私は
思うようになりました。●このイ
ンタビューを通して忘れていたそ
んな事を思い出しました。これか
ら私自身幾つ年輪を重ねるのか分
りませんがどんな状況にも決して
動じる事のない「年輪」をIさん
のように重ねたいものです。●I
さんに座右の銘はお聞きしてはい
ませんが、「泰然自若」がぴった
りとおてはまるように思います。
●夏の花が太陽に向かうひまわり
であるように、どんな時でも常に
前(太陽)を見ていたい!
インタビューにご協力を頂きま
したIさん「ありがとうございます
」心より感謝致します。

(インタビュー・記事 榎本)

編集後記
この度、この号を第一
号として、館内限定では
ありませんが、「六九八新
聞」を発行することとな
りました。

●きっかけは七月十一
日ホームページに載せた
ある利用者様からの「良
い話」でした。館内でも
このような良い話を
知って頂きたい、読んで
いただきたい、そんな機
会やものが無いかと考
え行きたいのが、「新
聞」でした。

●ロクハ荘は開館以来、
多年に渡り、多くの方々
にご利用頂いてきまし
た。これを機に「良い
話」をきっかけとしてご
利用者の方々からのイ
ンタビューし、その方の
人生を少し振り返って
頂き、エピソードのいく
つかをお聞きし、ご自身
が大切にしておられる
言葉や自慢話をいっぱ
い見つけ、文字にし、そ
こから少しでも心が温
かくなるものが提供出
来ればと考えています。
もし、声を掛けられた
際は、是非インタビューに
答えて下さいね。

同

編集者一

